

(令和5年度)
自己評価書

| | |
|-----|------------|
| 園番号 | 園名 |
| 704 | 奈良市立都跡こども園 |

704奈良市立都跡こども園

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 具体的評価項目及び指標 | 取組と成果 | 評価 | 評価の観点・理由 | 課題及び改善方策 |
|--------------------|----------------|-------------------|---|--|----|---|---|
| I 教育・保育活動に関するもの | (1) 教育・保育目標/計画 | ① 教育・保育目標の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が共通理解し、具体的な取組に繋がる目標を設定する。 ・目標達成のために、子どもの遊びや生活する姿を見通して、計画を作成する。 ・子どもの遊びや生活する姿の読み取り、分析を行うとともに保護者アンケートを実施し、保護者からの評価を検証する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に向け、研究主題を設定し子ども主体の遊びを大切に日々取り組んだ。子ども達は環境に自ら関わり意欲的に活動する姿につながった。 ・子ども達の発達に沿った指導計画、週の計画等を作成し見直す等、PDCAサイクルを心掛け改善に努めた。 ・クラス便りや学級懇談会、園長だより、園懇談等で、園の教育方針や取組を知らせ、個人懇談、日々の送迎時などでも、保護者からの意見も聞くように取り組んだ。保護者アンケートによる園評価では、どの項目においても高評価を得た。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの項目は、いずれもA,Bの高評価（全体の95%以上）で、園教育・保育に理解と支持を得た。 ・遊びの時間の保証をすることで教育目標に近付いた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで出た意見を受け止め、改善できる方法を職員間で話し合い、より質の高い教育・保育を提供することを目指す。 ・今年度に出た教育活動での反省や課題を来年度に見直し、つなげていく。 |
| | | ② 教育・保育計画の作成 | | | | | |
| | | ③ 教育課程/全体的な計画の編成 | | | | | |
| | | ④ 教育・保育活動の評価 | | | | | |
| | (2) 教育・保育内容/指導 | ① 指導計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> ・バンピーノカリキュラムを基に実際の子どもの姿から園の指導計画を立案し、年齢やその時期に応じた指導内容を考え、子どもの育ちを見取っていく。 ・『“とことん”遊び込む子どもを目指して～遊び込むための保育者の関わりを探る～』と、研究主題を定めて子どもの姿を3つの姿で捉え、“とことん”を引き出す保育者の援助や環境、指導方法を探っていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育の記録を丁寧にとり、分析することにより、一人一人の思いや、興味を持ったことに寄り添い、子ども理解に努めた。 ・興味・関心を持つ姿、自ら考え行動する姿、試行錯誤する姿と子どもの姿を3つの姿で捉え、子ども達の“とことん”につながる姿を引き出すための保育者の援助や環境、発達段階をにに応じた保育者の関わりに重点をおいて考え行ったことで、保育を振り返りながら、つぎの指導計画や保育内容につなげていくことができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が、子どもの遊ぶ姿の見取りを丁寧にを行い、分析し、援助を工夫してきたことで、様々なことを明らかにし、子どもたちの成長につなげることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者がより探求心をもって子どもの姿を見取り、必要な援助や環境について考えられるよう、継続した振り返りや見直しを行う。 ・子ども理解に努め、興味をもち、自ら考え行動し、試行錯誤する姿等”とことん”遊び込む姿を引き出せるよう、発達に応じた環境構成や援助を追求する。 ・実態の姿を捉え、次年度に活かす指導計画が立案できるようにする。 |
| | | ② 保育内容の精選 | | | | | |
| | | ③ 指導方法の工夫改善 | | | | | |
| | | ④ 評価 | | | | | |
| | (3) 園行事 | ① 指導計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での制限がとけ、子どもを中心に据え、行事の形式や内容を改めて検討する。 ・どの行事も子どもが主体的に取り組めるように、各学年の発達を考慮して立案する。 ・遊びと行事を繋げた保育内容の創造に努める。 ・行事の内容や方法を考え、安心・安全に実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学年・2学年・異年齢・全園児等人数を増やして実施したことで、場の雰囲気にも慣れ、学年としての意識をもって参加し、異年齢の直接的な触れ合いができた。 ・子ども達にとって有意義で充実した活動となるように、遊びや生活と行事を切り離さないように意識して進めたことで、子どもに負担なく取り組むことができた。 ・保護者や地域の方にも理解や協力を得て、今できることを考え実施できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟に、その時の状況に応じた形式や内容を考えて進めることができてよかった。 ・保護者アンケートや行事後の保護者の感想、また学校評議員からの意見の中でも、行事に子どもたちが主体的に取り組んでいる姿に高評価を得た。 | <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会は1年を通して子どもが同じ経験や発表ができるよう内容や方法を見直す。 ・今年度の反省から、さらに行事の精選と見直しを心がけ、子どもにとってより生活が充実したものとなるようにする。 ・行事以外でも子どもの様子をどのように発信していくのか(ホームページの活用等)模索し続けていく。 ・学年単位、園全体等、柔軟な考えをもって、形式や進め方を検討する。 |
| | | ② 行事内容の精選 | | | | | |
| | (4) 人権教育 | ① 人権教育指導計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の友達との生活や様々な人々とのかかわりの中で、相手を思う気持ちを育む。 ・一人一人を大切にした保育を心掛ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不適切保育について職員間で考えや行動を見直した。子どもの実態や生活背景を把握し、一人一人の子どもをありのまま受け止め、それぞれの個性を大事にし、互いの良さを認め合えるような取り組みを進めた。困っている友達に声をかけに行く姿や手を差し伸べる姿がたくさん見られるようになってきた。 ・生命を大切にする取り組みを進め、保護者にも伝えていくように取り組んだ。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の友達との生活や様々な人のかかわりの中で、相手を思う気持ちが育ってきている。 ・職員間で情報交換をしながら、連携して問題に取り組むことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を大切に一人一人が大切な存在であるということを中心に、職員の人権感覚をさらに磨いていく。 ・互いに認め合い育ち合いができる取り組みを進める。 |
| | | ② 保育内容の精選 | | | | | |
| | | ③ 指導方法の工夫改善 | | | | | |
| | (5) 生徒指導 | ① 組織的な指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の実態を出し合い、園全体で指導の手立てを共通理解して取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員連携を図り、各学級の状況を共有してきた。一人一人を理解し、良さを引き出すよう、きめ細かい指導に努めた。 ・関係機関とも情報交換等を行い、子どもの様子を見守った。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・素早い対応、組織的な対応、職員間の連携が奏功している。 ・常に保護者と連携し、個々の子どもについて情報を共有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な子ども、保護者への適切な対応をさらに強化する。 ・職員一人一人が、子ども一人一人の実態を把握する努力を常に行い、各学級の実態を職員間で共有し、園内の連携を深める。 |
| | | ② 教育相談・幼児理解 | | | | | |
| | | ③ 家庭との連携 | | | | | |
| | | ④ 関係諸機関との連携 | | | | | |
| | | ⑤ いじめ・児童虐待問題について | ・対処方針や指導計画が明確である | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より教員間で情報を出し合い、一人一人の実態把握に努め、子どもの変化に気づき早期発見につながるようになってきた。 ・保護者や地域の方々、関係機関との連携を密にし、個々に応じた対応を心がけてきた。 | B | | |
| | | | ・日頃より実態把握・早期発見に努めている | | | | |
| | | | ・各学級の状況を園組織として共有できている | | | | |
| | (6) 特別支援教育 | ① 推進体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブの考えのもと、支援の子どももクラスの中で認めあい過ごせるようにクラス運営をする。 ・一人一人の課題を明らかにして具体的な指導方法を共通理解する。 ・家庭との連携を密にする。 ・関係機関との連携を密にして、子ども理解に務める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を要する子どもに全職員で関わり、育てていく意識をもって取り組んだ。 ・個別指導計画を立てて取り組んできたが、特別支援を要する子どもが大変多いため、個別の支援が難しいこともあった。 ・視覚支援やユニバーサルデザインを取り入れ、わかりやすい保育を心がけた。 ・関係機関の相談員による子ども理解の研修の実施、関係機関との連携により、指導方法を改善し、実施していた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題を共有し、全職員で関わっていく体制をとっている。 ・担任と特別支援教育支援員が連携し、それぞれの発達に合った関わり方を検討しながら進めていった。 ・子ども発達センター、教育相談課、保護者と連携をし、個々に応じた支援ができるようにしてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と子どもの課題について丁寧に話し合い、共に進めていく。 ・関係機関との連携をさらに強化し、一人一人に合った集団における個別の対応を図っていく。 ・支援が必要な子どもには、職員間で共有した支援が行えるよう、また小学校へつなげるように『個別の教育支援計画』を作成する。 |
| | | ② 個々に応じた特別支援教育の内容 | | | | | |
| | | ③ 指導方法の工夫改善 | | | | | |
| | | ④ 家庭との連携 | | | | | |
| ⑤ 関係機関との連携 | | | | | | | |

(令和5年度)
自己評価書

| | |
|-----|------------|
| 園番号 | 園名 |
| 704 | 奈良市立都跡こども園 |

704奈良市立都跡こども園

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 具体的評価項目及び指標 | 取組と成果 | 評価 | 評価の観点・理由 | 課題及び改善方策 |
|--|-------------------|--|--|--|--|---|---|
| Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の | (1) 組織運営 | ① 園長のリーダーシップ | <ul style="list-style-type: none"> 園長が園経営の方針を示し、園運営上の課題を踏まえた園教育ビジョンを設定する。 職員の自発性や創造性を促しながら、適切な指導助言を行い、個々の職員の能力を十分に発揮させるための園内組織を編成する。 職員会議での園運営について、共通理解を図る。 職員相互のコミュニケーションを密にし、自分の立場を自覚して協力し合って、教育・保育を進めていく。 保護者アンケートの実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 園方針に基づき、遊びの重要性と幼児期につけたい力を明確にし、保育の方向性を明らかにすることができた。 園教育目標、研究主題について職員会議、研修での共通理解を図り、目標に向かって保育を推進することができた。 保護者アンケート実施により、園教育・保育の成果と課題を明らかにすることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 職員が子どもの実態を把握し、園教育目標、研究主題を意識して、日々の保育にあたっている。 職員がそれぞれの立場で、力を発揮し、園教育・保育を推進することができた。 各係や研究主任は、自分の立場を自覚し、他の職員に声掛けをしたり、互いに学ぼうとしたりする意識の向上が見られている。 | <ul style="list-style-type: none"> 職員間の報告・連絡・相談・確認をさらに密にし、連携・協同体制を強化する。 さらに個々の職員が、自分の立場と役割を自覚して園運営に携わることができるようにしていく。 |
| | | ② 園経営目標・方針 | | | | | |
| | | ③ 職員の適正配置と運営への参加意識 | | | | | |
| | | ④ 園務分掌等の連携 | | | | | |
| | | ⑤ 会議の運営と位置づけ | | | | | |
| | | ⑥ 会議の結果 | | | | | |
| | | ⑦ 職場の人間関係 | | | | | |
| | | ⑧ 園評価の実施 | | | | | |
| | (2) 研究・研修 | ① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 園研究主題を設定し、保育研究、実践する。 園内公開保育研修を年6回実施。副園長や研究主任が中心になって保育カンファレンスをし、他職員が記録をしまとめる。 園内研修・園内研究の場「ふれあいタイム」を設けて、気軽に子どもの姿を話し合うようにする。 他園の公開保育や園外研修、リモートでの研修に参加し、学んだことを報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って各担任が必ず1回、園内公開保育を実施し、“とことん”につながる保育者の援助や環境について見直すことができた。 リモートでの研修については、複数人で研修を聞くことで終了後考えを伝える等して共有することができた。 園内研究会や園内研修を行い、園研究主題に基づき職員間で話し合い、子ども理解を深めることができた。 ソニー幼児教育支援プログラムに職員で研修しまとめた論文を応募し「優良園」の評価を得た。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 園内公開保育研修を年間計画に沿って実施することで、保育改善につながる実践となった。 「ふれあいタイム」と位置づけることで、職員間で定着化し、子どもの姿から保育者の関わり的重要性や遊びへの理解が深まりつつある。 リモート研修では、複数人で参加。対面研修では、他園の職員と情報交換をしたり子どもの姿の学びを共有したりとして、資質向上につながった。 | <ul style="list-style-type: none"> 園外の研修の報告・伝達の時間を確保し、全職員が学びを共有できるように工夫すると共に、職員が自ら研修へ参加する意識が高まるようにする。 園内研修において研究主任が主となり、職員が活発な意見交換をして主体的に学び合う方法を今後も模索し実践していく。 |
| | | ② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施 | | | | | |
| | | ③ 園外の研修への積極的参加 | | | | | |
| | | ④ 園外研修内容の共有 | | | | | |
| | | ⑤ 研修成果の普及 | | | | | |
| | (3) 安全管理 | ① 安全計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> 安全計画の見直しと職員の共通理解をする。 月1回、會津保育園と一緒に避難訓練をする。 危機管理体制の整備の充実 安全指導の工夫改善の実施 コードモンを活用し、園と家庭との連携を図っていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定して、毎月避難訓練を実施した。 日々の欠席状況の確認及び保護者への連絡の徹底等、「報連相」を行っていきようにし危機管理意識を高めるようにした。 保護者との引き渡し訓練を実施し、啓発を行った。 南消防署の方から避難時の指導及び講評を聞いたり、水消火器の訓練を行ったりしたことで、より防災意識を高めることができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難訓練により、職員や子どもたちに防災に対する意識が高まってきている。 出席状況を複数人で確認し、危機管理意識をもち、職員間で連絡を取り合うように心がけた。 | <ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き水消火器を使用した訓練やAEDや救命救急研修を計画する等、職員の危機管理意識をさらに高める。 非常用の備蓄の数、置き場所の見直し等を行っていく。 避難訓練ではあらゆる状況を想定する等、どんな場面でも緊急に対応できるよう、常に高い意識をもって保育をする。 |
| | | ② 防災計画の立案 | | | | | |
| | | ③ 危機管理体制の整備 | | | | | |
| | | ④ 安全指導の工夫改善 | | | | | |
| | | ⑤ 家庭との連携 | | | | | |
| | | ⑥ 関係機関との連携 | | | | | |
| | (4) 保健管理 | ① 保健計画の立案 | <ul style="list-style-type: none"> 保健・健康に関する情報は、タイムリーに紙面で保護者に配布し、予防に努めてもらえるようにする。 基本的な生活習慣の確立をめざし、子どもの健康管理に努める。 給食、おやつ等の衛生管理に努める。 園医、薬剤師、管理栄養士との連携による衛生管理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 看護師と連携し、不測の事態に全職員が対応できるよう、緊急時対応マニュアルを作成し、アレルギーや痙攣等の既往歴を把握し取り組んだ。救急搬送を要した時も、連携をとって対応できた。 感染症の流行時には、対策方法や注意喚起を保護者に紙面やコードモンを利用して知らせた。また、感染が広がりつつある場合は、速やかに園医に相談し、必要に応じて学級閉鎖の措置をとった。 手洗い、うがいの励行、換気の徹底を実施した。 給食時は全職員が共通理解し、誤食が起らないようにアレルギー確認を口頭や視覚でわかるように改善工夫し取り組んだ。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携を密にし、感染症等の対応を素早く行った。 基本的な生活習慣面の指導を強化することを推進する。 家庭との連携において感染予防の意識を高めることができた。 看護師指導のもと、エビペンや痙攣発作時の対応研修を行い、緊急時の対応の意識を高めた。 | <ul style="list-style-type: none"> 感染症等の情報はその都度、保護者に伝え感染を防ぐようにする。 手洗いの徹底や室内の換気等、衛生面の環境整備を心掛ける。 園内での感染症対策等の見直しをしていく。 健康面で配慮が必要な子どもに対して、検温をこまめにし、体調の変化に気を配る。 全職員で配慮が必要な子どもを把握し、連携してケアしていく。 |
| | | ② 心のケアや健康相談の体制の整備 | | | | | |
| ③ 健康観察、健康管理能力の育成 | | | | | | | |
| ④ 関係機関との連携 | | | | | | | |
| ⑤ 昼食の衛生管理 | | | | | | | |
| (5) 地域との連携 | ① 園情報の発信 | <ul style="list-style-type: none"> 各種たよりや地域の会合等で、園の取組を発信する。 小学校、中学校との連携を図る。 P T A と協力、連携する。 CSの会議、地域教育協議会で園の取組を発信するとともに、地域のコーディネーターと連携し、地域力をいかした園の教育・保育を進める。 学校評議員の開催、年3回を必ず行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なたより(園・園長・クラス・預かり保育・未就園児)を毎月発行し、園教育・保育の理解を求めた。 校長先生に園の行事で来園していただいたり、駆け足を通して校庭を使用させていただき学校を知り、交流できたりしたことが、子ども達も身近に小学校を感じ、親しみや憧れの気持ちが芽生える姿につながった。 地域コーディネーターの協力を得て活動を実施することで、子どもたちは地域の方の来園を楽しみにしている。 学校評議員会やCS会議の場で、取組の発信、また参観の機会を経て、取組への理解を得た。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校評議員に学期ごとに子どもの様子を参観していただき、参観後の評価や感想を聞いた。 保護者アンケート結果や、地域の方の評議員委員会、CS会議、また、保育参観による園児の様子や園の取組に対して、高評価を得た。 | <ul style="list-style-type: none"> さらに、園教育・保育内容の取組について、広く発信する。 ホームページを活用していく。 小中学校との連携し、また地域力をいかし、交流の機会も増やしていく。園児がさらなる豊かな経験ができるようにする。 | |
| | ② 園(保育)公開 | | | | | | |
| | ③ 小学校との接続・連携 | | | | | | |
| | ④ こ幼保との連携 | | | | | | |
| | ⑤ P T A ・保護者会の活性化 | | | | | | |
| | ⑥ 地域教育協議会との連携 | | | | | | |
| | ⑦ 学校関係者評価の実施 | | | | | | |
| (6) 施設・設備 | ① 保育環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 園内環境の整備と有効活用。 柔軟な発想による園内環境の工夫。 施設設備の安全点検。 | <ul style="list-style-type: none"> 季節や子どもの遊びの状況に応じて園内環境の見直しをかけ、環境の整備や遊び遊具の改修を実施した。 毎月遊具の安全点検を行い、危険箇所はないか把握し、補修や整備を行った。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 保育者や子どもの発想により、園内環境見直し整備等も行い、子どもが遊びを創りだす保育の推進に繋がった。 毎月の安全点検や、日々の保育の中で危険な所はないかを意識しながら取り組むようにした。 | <ul style="list-style-type: none"> 常に安全面の配慮を職員一人一人が心掛ける。 保護者からの意見を受け、環境を見直す。 | |
| | ② 施設設備の有効利用 | | | | | | |
| | ③ 施設設備の管理 | | | | | | |
| (7) 情報管理 | ① 公文書の收受・保管 | <ul style="list-style-type: none"> 個人情報に関わるデータや、文書の管理を徹底する。 研修等に参加し、職員の意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者から預かっている個人情報や名簿、写真等、管理を徹底し、慎重に取り扱うように共通理解した。 個人の職員カード等、毎日使う情報につながる物の管理を危機管理意識をもち、収納する場所や紛失することのないように工夫し扱うように共通理解した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 情報機器について扱い方や管理の仕方を職員間で確認した。職員の個人情報保護・管理に関する意識が向上した。 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き研修等に参加し、個々に情報管理の意識を高まるようにすると共に、定期的に『情報セキュリティポリシー』を遵守できているか園内で確認する機会を設けていく。 | |
| | ② 公文書の作成 | | | | | | |
| | ③ 個人情報の管理・保護 | | | | | | |
| | ④ 情報の収集 | | | | | | |
| | ⑤ 電子媒体の管理 | | | | | | |